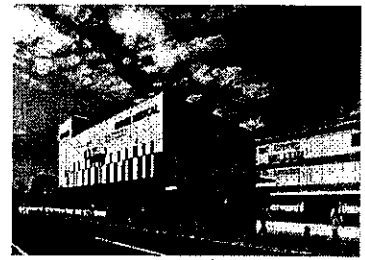


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	グンゼ(株)メディカル事業部包装棟	階数	地上4F
建設地	京都府綾部市青野町築ヶ市46番地	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条	平均居住人員	16人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,863時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年11月1日
敷地面積	1,520㎡	作成者	三嶋 絢香
建築面積	871㎡	確認日	2023年11月1日
延床面積	2,698㎡	確認者	太田 幹男



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)								
<p><b>BEE = 1.7</b> ★★★★★★☆☆</p> <p>S: ★★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆★☆☆☆☆</p> <p>30% ★☆☆☆☆ 60% ★☆☆☆☆ 80% ★☆☆☆☆ 100% ★☆☆ 100% 超★☆☆</p> <p>標準計算</p> <table border="1"> <tr> <td>① 参照値</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>② 建築物の取組み</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>③ 上記+②以外の</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>④ 上記+</td> <td>62%</td> </tr> </table> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	① 参照値	100%	② 建築物の取組み	62%	③ 上記+②以外の	62%	④ 上記+	62%	<p><b>Q2 サービス性能</b></p>
① 参照値	100%									
② 建築物の取組み	62%									
③ 上記+②以外の	62%									
④ 上記+	62%									

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<b>Q のスコア = 3.0</b>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 3.0</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 3.4</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 2.7</p>
<b>LR のスコア = 3.8</b>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 4.3</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 3.4</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 3.5</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>・高効率な設備機器の導入、節水器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。</p>		<p><b>その他</b></p>
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>・全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>・主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握して、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性の確認が可能である。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>・O Aフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®-建築(新築) 2021年SDGs対応版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	グンゼ(株)メディカル事業部包装棟	階数	地上4F
建設地	京都府綾部市青野町築ヶ市46番地	構造	S造
用途地域	準工業地域、法22条	平均居住人員	16人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,863時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年11月1日
敷地面積	1,520㎡	作成者	三嶋 純香
建築面積	871㎡	確認日	2023年11月1日
延床面積	2,698㎡	確認者	太田 幹男

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果
<p>BEE = 1.7</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 62%</p> <p>③上記②以外の 62%</p> <p>④上記+ 62%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100%</p> <p>②建築物の取組み 62%</p> <p>③上記②以外の 62%</p> <p>④上記+ 62%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>3(保健) 2.3</p> <p>4(教育) 2.0</p> <p>5(ジェンダー) 2.0</p> <p>6(水・衛生) 2.1</p> <p>7(エネルギー) 2.1</p> <p>8(経済・雇用) 1.9</p> <p>9(イノベーション) 1.8</p> <p>11(都市) 1.7</p> <p>12(生産・消費) 2.3</p> <p>13(気候変動) 2.1</p> <p>15(陸上資源) 1.3</p> <p>17(実施手段) 2.1</p> <p>*SDG1,2,10,14,16は他のゴールに業約されています</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q のスコア = 3.0</p>		
<p>Q1 室内環境</p> <p>Q1のスコア = 3.0</p> <p>音環境 2.6 温熱環境 3.2 光・視環境 3.0 空気質環境 3.4</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q2のスコア = 3.4</p> <p>機能性 3.1 耐用性 3.0 対応性 4.2</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>Q3のスコア = 2.7</p> <p>生物環境 3.0 まちなみ 3.0 地域性 2.0</p>
<p>LR のスコア = 3.8</p>		
<p>LR1 エネルギー</p> <p>LR1のスコア = 4.3</p> <p>建物外皮の N.A. 自然エネ 3.0 設備システ 4.3 効率的 3.3</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR2のスコア = 3.4</p> <p>水資源 3.3 非再生材材の 3.3 汚染物質 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LR3のスコア = 3.5</p> <p>地球温暖化 4.3 地域環境 2.7 周辺環境 3.2</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>・高効率な設備機器の導入、節水型器具の採用等により、環境負荷の低減に配慮した建物である。</p>	<p>その他</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>・全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>・主要な用途別エネルギー消費の内訳を把握して、消費特性の傾向把握・分析を行い、妥当性の確認が可能である。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>・O Aフロアの採用によって部材の再利用可能性向上を図り、躯体と仕上材の分離を容易にすることで、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>・周囲への漏れ光に配慮した屋外照明計画としている。 ・燃焼機器の設置をなくし、大気汚染防止に配慮している。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される